



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3860号 2017.8.27 発行

厚生労働省の概算要求、実質過去最大に 「働き方改革」重点 朝日新聞 2017年8月25日

厚生労働省は25日、2018年度予算の概算要求を公表した。一般会計の総額は31兆4298億円で、今年度当初予算額を2.4%上回って実質的に過去最大の要求額となった。医療や介護などの社会保障費のうち、高齢化に伴って自然に膨らむ額は6491億円となり、増加額の約9割を占めた。

重点分野の一つが、安倍政権の目玉施策「働き方改革」関連で、今年度当初予算額より4割多い計約2800億円を求めた。そのうち企業の長時間労働に対する監督指導の強化には20億円を計上。全国の労働基準監督署の非常勤職員を約80人増やす。

20年度末までの「待機児童ゼロ」の目標に向けては、9万人分の保育所の整備費の補助として944億円を要求した。企業などがつくる「企業主導型保育所」の増加分や19年度予算での対応とあわせ、計22万人分の保育の受け皿を新たに確保する計画。新設する保育所の運営費は別途、内閣府の予算として確保する必要があり、年末までの検討課題となる。

人手不足が深刻な介護職員を増やすため、未経験者を対象とした新たな研修制度を創設するための事項も盛り込んだ。特に退職後の中高年が現場に入ってきてやすくするのが狙いで、来年度の導入を目指す。

増え続ける社会保障費の抑制策も盛り込んだ。生活保護の受給者が無料で医療を受けられる「医療扶助」の不適切な利用を減らすため、41億円を計上。同じ診療科に月15日以上通う人のうち、過剰な受診と認められる人をリスト化して指導する態勢をつくった自治体に補助を出すとしている。

厚生労働省の概算要求額は、15年度予算の31兆6688億円が過去最高。同年度から保育所の運営費などが内閣府に移ったため16年度の要求額は減ったが、実質的には毎年増え続けている。

ワクチン量、昨年以下回る見通し インフル「接種者は確保」

共同通信 2017年8月25日

冬の流行に備えたインフルエンザワクチンの製造予定量が、昨年度に使われた量を下回る見通しであることが25日分かった。厚生労働省が専門家会合で明らかにした。適切な使用法を徹底すれば「昨年度と同じほどの接種者数は確保できる」と説明している。

厚生労働省によると、ワクチン製造量は昨年度より4%減る見通し。ワクチンに使うウイルス株を選び直した影響という。

ワクチンは、13歳以上は通常1回の接種だが、2回接種する人もいる。厚生労働省は1回の接種を周知徹底し、使用量を減らせるとみている。返品を前提とした医療機関の余分な発注をなくすための対応も強化する。

部活中に熱中症、特別支援生徒が意識不明 体罰のランで 朝日新聞 2017年8月26日

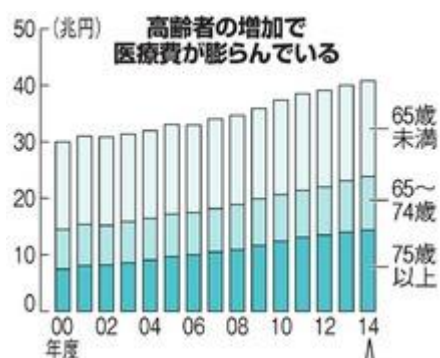
東京都教育委員会は25日、知的障害特別支援学校の都立永福学園（杉並区）で高等部1年の男子生徒（15）がバスケットボール部の部活動中に熱中症で、意識不明の重体になったと発表した。顧問教員に罰として科された約10キロのランニング中だったといい、都教委は「過度の負担をかける不適切な指導だった」として体罰にあたと認めた。

都教委によると、男子生徒は23日午後4時ごろ、同校の敷地内で校舎の外周（約450メートル）を約20周走った後、脱水症状のために倒れた。その後、救急搬送中にけいれんを起こし、意識を失ったという。

男子生徒は、21日の部活動で校舎の外周を走った際、顧問の男性教諭（31）が設定した時間（1分25秒）を43秒超過したとして、ペナルティーとして43周のランニングを科された。しかし、この日は21周までしか走れず、23日に残りの22周分を走ると教諭に申告し、教諭も承諾。生徒は2周ごとに水分補給を受け、別の男性教諭（33）に伴走もされたが、教諭が伴走を外れた後、残り1周で発症した。

当時、杉並区内の気温は32度だったという。25日に記者会見した朝日滋也校長は「過度な練習が行われており、深く反省している」と陳謝。都教委は同日、警視庁に報告した。29日に都立校の全校長を集め、再発防止を徹底する。（伊藤あずさ）

膨らむ高齢者の医療費 治療、どこまで？ 生田大介 朝日新聞 2017年8月26日



0～14歳	15.3万円
15～44歳	11.7
45～64歳	27.8
65～69歳	48.4
70～74歳	63.5
75～79歳	78.5
80～84歳	92.6
85歳～	104.8

日本は世界に誇る長寿国となった一方、それが医療費を膨張させている。薬や医療機器の高額化も進むなか、高齢者への医療はどうあるべきなのか。

■相次ぐ、画期的医療技術

西日本のある病院に昨年末、90代後半の重症心不全の女性が運び込まれた。心臓から血液を全身に送るための弁が硬くなり、呼吸困難に陥った。本来なら胸を切って人工弁を埋める外科手術が必要だが、高齢過ぎて体力的に耐えられない。

そこで、太ももの血管から細い管を通して人工心臓弁を届ける「経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI（タビ））」という治療が行われた。体への負担が少ない最先端の技術で費用は700万円ほど。保険が利くので患者負担は少ないが、保険料や公費の負担は大きい。

治療は成功して女性は無事に退院したが、その数カ月後に肺炎で亡くなった。治療を担当した医師は振り返る。「症状が悪化するまで畑仕事をしており、『もう一度元気になりたい』という思いが強かった。高齢になるほど肺炎や脳梗塞（こうそく）のリスクは高くなるが、発症するのか予測は難しい」

TAVIは国内では2013年に保険適用され、8千例以上行われた。だが、比較的余命が短い「超高齢者」にどこまで使うのか、医療現場は模索している。

北里大学では、95歳の患者まで対象としたことがある。阿古潤哉教授は「体力や認知能力などから適応をしっかり選んで実施している。国民皆保険がこのまま持つかどうか懸念はあるが、年齢だけで区切っているのか難しい」と漏らす。

TAVIの費用対効果は高いとされるが、合併症を起こす可能性が大きい高齢者には費用対効果が低いという海外の研究もある。TAVIの関連学会協議会の事務局を務める鳥飼慶・大阪大講師は「手術できない高齢者にとってTAVIは福音となる技術。ただ、超高齢者にどこまで適応をするかは、医療費の観点も含めて議論していく必要があるのでは

ないか」と話す。

介護の担い手に新研修制度 中高年の人材確保狙う 朝日新聞 2017年8月26日
人手不足が深刻な介護職員を増やすため、厚生労働省は未経験者を対象とした新たな研修制度を創設する。特に退職後の中高年が現場に入ってきてやすくするのが狙いだ。2018年度の導入を目指す。25日に公表した来年度予算の概算要求に、研修実施費用などの事項を盛り込んだ。

現在、介護分野の最も初歩的な研修制度は「介護職員初任者研修」で、130時間の研修を修了すると訪問介護ができる。新制度はその半分程度の時間で修了できるようになる見通し。受講者には介護保険制度や認知症の基礎知識のほか、移動や着替えなど基本的な身体介護の仕方などを学んでもらう方向だ。

施設での介護なら資格や研修は今も不要だが、厚労省は簡単な研修で不安をなくせば介護の世界に入りやすくなると期待する。介護職員やボランティアとして活動できるよう、施設とのマッチングもする。ただ、修了しても給与面などで優遇されるとは限らず、どこまで人手不足解消につながるかは見通せない。

高齢化で介護職員の需要が高まる一方、賃金の低さなどから慢性的な人手不足で、20年代初頭には約25万人の介護人材が不足するとされており、確保策が急務になっている。

厚労省はまた、原発事故に伴う避難指示が解除された福島県相双地域にある介護施設への就職希望者に貸し付ける「就職準備金」の額を、18年度から現行の30万円から50万円に引き上げることを決め、概算要求に入れた。対象は県外在住者と地域に戻ってくる避難者で、1年間働けば返済は免除される。(松川希実)

障害者との共生の場に 静岡流通センター、裏山に福祉農園を整備



静岡新聞 2017年8月25日
静岡流通センターが整備を進めている福祉農園＝8月下旬、静岡市葵区
協同組合静岡流通センター（静岡市葵区、伊藤哲理事長）は、同センターの裏山を活用し、福祉農園の整備を始めた。周辺の医療機関や学校、福祉関連団体と連携し、障害者との共生の場を構築する狙い。当面はヤギを放牧し、梅園とタケノコ農園を設ける。将来的には地域住民に開放するとともに、病院を見舞いなどに訪れた家族らが宿泊できるバンガローなどの整備も視野に入れている。

関係者によると、卸商業団地敷地内の山の斜面に梅園約1万平方メートル、タケノコ農園約1万5千平方メートルを設ける。遊歩道の整備も進めている。既に梅の苗木約300本を植えたほか、タケノコを育てるため放置された竹を静岡市の助成を受け伐採した。

園内には下草刈りのためヤギ5匹を放している。同センターに間接雇用された知的障害者ら約10人が、ヤギの世話や農園の整備などに取り組んでいる。梅ジュースや梅干しの製造、販売も計画している。

同センターは周辺に県立こども病院、静岡てんかん・神経医療センターや県立中央特別支援学校、県立静岡北特別支援学校があることなどから、福祉や共生の場づくりの模索を続けている。2015年には障害者を雇用するコンビニエンスストアを開店したほか、組合員の拠点施設を障害者の避難所として開放することも検討している。

卸商業団地としては異例の福祉農園整備について伊藤理事長は「中小企業の集団である組合の社会的責任として、障害者雇用の場の創出に取り組む。豊かな自然環境を生かして、障害者が自立できる場にしたい」と話した。

<メモ>静岡流通センター 卸商業団地として1975年に事業を開始した。団地は約

21万平方メートル。卸売業、印刷業、小売業、製造業、運送業など47社が協同組合に加盟する。団地内では約2000人が働く。2015年3月には障害者を雇用するコンビニエンスストアを開設した。

なぜはまる？ハンドスピナーの世界



おもちゃがなぜ人気なのか。同じく存在を知らなかった同僚記者と調べてみると、奥深い世界が広がっていました。

(ネットワーク報道部記者 郡義之 栗原岳史 伊賀亮人)

こんなに流行っているとは…

まずはハンドスピナーがどんなものか知りたいとネット通販サイトで検索するとさまざまな商品が。価格は1個数百円から高いもので1万円を超えるものまで。もともとはアメリカ生まれのおもちゃで、自動車部品などにも使われるベアリングに部品を取り付けて、回転する様子を見て楽しむということです。回り続ける長さは数十秒から数分。

職場で聞くと「何か月も前から使っているよ」と先輩記者。われわれが知らなかっただけで大人にも浸透しているようです。



いつから人気に？

ではいつからはやり始めたのか。50種類以上のハンドスピナーを扱うおもちゃ店の「スピギア」の長谷川貴彦社長は「気がついたら流行っていた」と話しています。

長谷川さんによると、ブームになるおもちゃは毎年1月から2月にかけて、香港、ドイツのニュルンベルク、それにニューヨークで開かれる大規模な

国際見本市で注目を集めるのが一般的だといいますが、ハンドスピナーは、3つの見本市のいずれでも大きな話題とはならず、日本のおもちゃ業界ではことしはじめの段階では注目されていなかったそうです。

それがことし3月後半に、動画投稿サイト「YouTube」で紹介されてから、日本ではインターネットを中心に話題となり、5月の大型連休前後から爆発的に売れるようになったということです。

「スピギア」では1000円余りのプラスチック製の商品から高額なものでは1万7000円余りの商品ラインアップがあり、先月はなんと数万個が売れたということです。

夏休みの工作で人気

ハンドスピナーは購入するだけではなく、自分で組み立てることができるのも魅力の1つだといえます。

8月23日に東京・三鷹市の個人宅で開かれたハンスピナーのワークショップ。小学生



ら4人とその親が参加して、ハンスピナー作りに挑戦していました。

開いたのは市内に住む沼尾智子さんと息子で小学6年生の撰樹くん。知り合いに作り方を紹介したところ、人気を集めたことから、これまでに7回ワークショップを開いたということです。

記者も挑戦してみました。撰樹くんの手ほどきを受けてベアリングとボルト、ナット、結束バンドなどを使って

30分ほどで完成。「うーん、意外に簡単じゃないか」。勢いよく回る様子に記者も少し癒やしを感じるように。

「回していると気持ち的に落ち着く」と話す撰樹くん。智子さんは、夏休みの工作のため依頼を受けることが多いと言い、今月もあと2件の依頼が入っているということでした。



人気爆発でベアリングが品薄に

こうした中、全国のホームセンターではちょっとした異変も。ベアリングの売り上げが急増しているのです。

全国で「ホームマック」など600店舗余りのホームセンターを展開する「DCMホールディングス」によると、販売しているベアリングはもともとは町工場の従業員など特定の人たちが購入していたということで販売数も大きな変動はありませんでした。

それがことし5月下旬。全国の店舗での1週間の販売数が、去年と比べて2倍以上に急増。子どもたちが夏休みに入った7月下旬から売り上げの伸びはさらに加速し、8月第3週の売り上げは去年と比べて6倍にまで跳ね上がったそうです。

関東を中心にホームセンターを展開する「島忠」でも、ベアリングの需要が急に伸びたため品薄となり、仕入れも難しいという状況が起きているということです。



メーカーも本気に

ベアリングに思わぬ人気が出る中、この追い風を生かそうとメーカーも乗り出しました。

ベアリング業界の大手「日本精工」では、ほかには無いものを作ろうと、子会社の社長が音頭を取って、ことし5月から3か月かけて開発したのが、1万7000円の高級製品です。

ベアリングメーカーの「本気」を見せ

ようと意気込んでこだわった点が、とにかく長い時間、回り続けること。直径およそ1センチの輪の中に直径1ミリのボールを13個組み込んだ、パソコンのハードディスクドライブ用のベアリングを使っています。

できるだけ摩擦の抵抗を受けずに滑らかに回転するように、ボールや輪を磨き上げ、細かな部品を手で組み立てることなど、長年培った技術の見せどころだと、熟練した職人が一つ一つ手作業で制作しているということです。

日本精工が公開している動画

動画投稿サイトでは、実に12分近くも回り続ける様子が公開されています。8月上旬に販売を開始すると、ハンドスピナーにはまる大人などに人気を集め、これまでにおよそ200個を販売しましたが、追加の注文が後を絶たず、**生産が追いつかない状況**が続いているということです。

日本精工は「ふだん目にとまることのないベアリングの存在を知ってもらうためには、めったにないチャンスだととらえています」と話しています。

予想外の展開に

人々はなぜ、ハンドスピナーを買い求めるのか。

「スピギア」の長谷川さんは、手軽に回せて落ち着くという理由以外に、2つ目3つ目と買い求める人が少なくないことから、ユニークな形や鮮やかな色の特別なスピナーを扱うことで、Instagramに写真を投稿する「**インスタ映え**」を狙って購入している人も多いのではないかと見ています。

長谷川さんは「SNSで火がついた『はやり物』なので、当初は2か月間の勝負で、今月には流行は終わるだろうと思っていた。ところが、今月後半になっても予想に反して売れ続けており、**正直なぜ売れているのかはわからない**」と話しています。

疲れた心に癒やしの効果？

消費動向などを研究している博報堂買物研究所の山本泰士さんは人気を集める背景の1つとして、**現代の生活の忙しさから少しでも解放されたい**という人々の思いと関係があるのではないかと指摘します。

博報堂が10年ごとに行う小学4年生から中学2年生を対象にした調査で、増やしたい時間を聞いたところ、「ひとりで過ごす時間」と答えた子どもの割合は20年前に比べて10ポイント近く増えているほか、「ぼんやりと過ごす時間」と答えた子どもの割合も12ポイント増えました。



山本さんは「かつてはいろいろスケジュールを入れて時間の隙間を埋めようと一生懸命になっている人が多かったが、その結果、隙間が無くなったことで、人々の心に余裕がなくなった。あらゆるものがオンラインにある一方で、**何もつながっていないこうしたおもちゃが、子どもや大人、年齢に関係なくちょっとだけ無になれる癒やし**になっているのではないかと

分析しています。

とにかく回してみた

ただひたすら回すだけの単純な構造ながら、なかなか奥深い。取材を終えて、職場で改めてハンドスピナーを回してみました。くるくる回る姿になぜか無の境地を感じ、日々の仕事に追われる記者には意外と癒やしになるかもと思いました。

パラリンピックが障害者の偏見助長？ 東京大会に課題 朝日新聞 2017年8月25日

パラリンピックは障害者への偏見を助長する――。成功したと伝えられる2012年ロンドン大会後に行われた障害者への調査で、そんな結果が出た。25日で開幕まで3年となった東京大会で、心のバリアフリーは実現できるか。

ロンドン大会後、英国の民間団体が障害者に対して健常者の態度が変化したかを尋ねたところ「変化がない」が59%、「悪化した」が22%だった。大会が障害者の評価にポジティブな影響を与えたという回答が81%に達した、英国政府の一般市民を対象にした調

査とは大きな開きがある。



乗り換えるバスがわからず立ち尽くすジウソンさん

さらに、ロンドン大会が選手以外の障害者のスポーツ参加への動機づけにはなら



なかったとのデータも出た。

東京大会に向けて、決して看過できるデータではない。内閣官房の試行プロジェクトの一環として「心のバリアフリー教育・研修の評価」に関する提言書を提出した一般社団法人コ・イノベーション研究所の橋本大佑代表理事も同様の問題意識を抱く。「東京パラリンピック開催決定後に心のバリアフリー教育が増えたことはいいことだ。ただ、障害者への偏見が助長されるものも多い」と話す。

なぜなのか。ロンドン大会や16年リオデジャネイロ大会後の影響についての調査をした橋本代表は「高度な運動能力を持つパラリンピック選手と、そうでない障害者との間に、隔たりが生じている」と指摘する。現状の心のバリアフリー教育が「障害者は能力が劣っていてかわいそう」と極端に過小評価するか、「障害者には特別な能力がある」と過大に評価する二極化を招き、悪影響を及ぼしかねないという。難しい状況を努力で乗り越えない障害者は怠け者と考えられる人が増える可能性がある。

リオ大会が開催されていた昨年9月、視覚障害者のジウソン・ジョゼフィーノさんの通勤に記者が同行した。リオ市街地では、携帯を見ながら歩く人がジウソンさんにぶつかり、何も言わずにその場を去る光景が目立った。

「パラリンピックが来ても、みんなスポーツを見ているだけ。障害者に助け舟を出してくれる人は少なくなっている」とジウソンさん。そして、次のパラリンピックを受け入れる東京にはこう助言した。「障害者を街で見かけたら『手伝いましょうか』と声をかけて。手助けが必要ない時もあるが、声をかけてもらえれば事故は起きない」

障害学の研究者で、自身が視覚障害者でもある東京大学教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターの星加良司准教授は、「特別な人に特別な優しさを提供しようという意識からは、心のバリアフリーは実現されない」と話す。

個人の機能が困難を生んでいるのではなく、多数派に都合良く作られた社会のルールや仕組みが、人に困難をもたらしているという発想の転換が必要だと訴える。「社会をどう変えていくのかに注目し、他者のニーズを聞き取る大切さに気づく。パラリンピックがそんなきっかけになれば」（後藤太輔）

■ロンドン大会を通してスポーツに取り組みたいと感じましたか？（2013年6月、18歳以上の障害者1014人に調査）

【大会を通して、スポーツはより遠いものになった】4% 【スポーツに取り組みたいと感じなかった】79% 【大会に関わらず、現在スポーツを行っている】7% 【以前やっていたスポーツに再度取り組みたいと感じた】7% 【新しいスポーツに取り組みたいと感じた】3% ※英国の民間団体による障害者への調査から

東京パラへ 障害者がスポーツできる場を増やす新事業

NHK ニュース 2017年8月26日

3年後の東京パラリンピックに向けて、スポーツ庁は来年度から障害のある人が地域で

スポーツに参加できる場を広げるための新たな事業を実施する方針を固めました。東京パラリンピックの開幕まで25日でちょうど3年となりましたが、競技のすそ野を広げていくことが課題の一つとなっています。このためスポーツ庁は、来年度から障害のある人が地域でスポーツに参加できる場を増やそうという新たな事業を実施する方針を固めました。

具体的には、都道府県などを対象に、福祉施設で「ボッチャ」などの競技を体験したり地域のスポーツクラブで障害者を受け入れたりする取り組みを募集し、1つの取り組み当たり数百万円程度を念頭に活動費を支援することにしています。また障害者スポーツの団体の運営体制の充実を図るため、寄付などの取り組みが進むよう民間企業に働きかけを強めていく考えです。スポーツ庁はこうした費用として来年度予算案の概算要求に6000万円を盛り込むことにしていて、障害のある人がスポーツをしやすい環境の整備に努めることにしています。

地下鉄駅員に日頃のサポート感謝 障害者支援団体 神戸新聞 2017年8月26日 駅員に日ごろの気持ちを込めた感謝状を手渡す利用者ら＝神戸市中央区、みなと元町駅



障害のある人の社会参加を支援しているNPO法人「ウィズアス」(神戸市長田区水笠通4)は25日、神戸市営地下鉄新長田駅(同区)とみなと元町駅(中央区)の駅員に感謝状を贈った。両駅を訪れた足腰の不自由な利用者らが、日ごろ電車の乗降をサポートしてくれる駅員にお礼を述べた。

ウィズアスは2002年に設立。長田区で障害者専用シェアハウスを運営し、中央区の中突堤近くに作業所を設け、就労を支援する。これらの場所への移動で、特に法人の利用者は新長田駅とみなと元町駅の利用が多い。駅員はホームでの乗り降りを手助けするほか、「今日は暑いね」「お疲れさま」などと声掛けもしてくれるという。みなと元町駅であった感謝状の贈呈式では、ウィズアス代表理事の鞍本長利さん(66)が「駅員と利用者の温かい関係性が生まれました。本当にいつもありがとうございます」などとあいさつ。感謝状とともに、作業所で作った木製クリップなどを手渡すと、和やかな雰囲気にも包まれた。みなと元町駅の大田宜彦・主任駅掌は「とても励みになる。今後も気配りを続けたい」と話していた。(杉山雅崇)

下野の福祉施設、栃銀で商品販売 下野新聞 2017年8月26日 商品を販売するエールのスタッフや利用者



【下野】市と下野市市内施設連絡会は23日、栃木銀行自治医大駅前出張所(小金井支店)で市内障害者就労支援施設などの商品販売会を開いた。

昨年10月、市と同行が締結した「産業振興に関する連携協定」の関連事業の一環。社会福祉法人啓愛会の自立支援施設「エール」など5施設の商品を幅広い年代の人が訪れる銀行で販売し、活動



の周知などを図る。市から同行へ提案した。この日はエールのスタッフや施設利用者が接客を担当。手作りのパンやハンドメイドの雑貨などを市民や行員らへ販売した。売り上げは施設利用者の収入となる。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行